

○1 番（岡本真澄君）

1 番、岡本真澄です。質問を 2 点させていただきます。

初めに、学校における働き方改革についてお聞きします。

まず、教員の長時間労働問題ですが、過労死のラインと言われている、月平均 80 時間以上の残業や休憩時間が取れない方もいらっしゃる現状が問題視されております。

また、超勤 4 項目以外での対応にも、日々追われたりと、近年、マスメディアにて多く報道されるほど大変な状況が続いております。

現在の学校現場を表すブラック学校という言葉もあり、教員の方々の常態化した長時間労働の問題は、全国的に極めて深刻な社会問題であります。

1 つ目ですが、土庄町におかれましても例外ではないと思いますが、教員の方々の就業時間は何時から何時まででしょうか。

また、残業時間はどのような状況でしょうか。担当課長にお伺いいたします。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 堀康晴君。

○教育総務課長（堀康晴君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

教職員の長時間労働につきましては、全国的な問題となっており、香川県や本町におきましても同様な状況でございまして、改善策を模索しているところでございます。

ご質問の教員の就業時間は、土庄小学校は 8 時 5 分から 16 時 35 分、土庄中学校、豊島小中学校は 8 時から 16 時 30 分でございます。

次に、残業時間でございますが、令和 4 年度の実績で申し上げますと、「土庄町立学校の教育職員の在校等時間に関する方針」におきまして、時間外勤務の上限時間は原則として 1 カ月に 45 時間としており、それに加えて、臨時的な特別の事情がある場合の上限時間は、年間 720 時間としているところであります。720 時間未満の者は、全体の 69.4%となっており、つまり、30.6%の教員が上限を上回る状況でございます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1 番（岡本真澄君）

先ほど課長の答弁にもありましたとおり、30.6%の教員の方々が上限の残業時間というかたちで、超えているというかたちなんですけれども、残業時間が最も多い方で大体どれくらいの何時間残業されていらっしゃるか、お願いいたします。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

岡本議員の再質問にお答えいたします。

最大の方で年間 923 時間、923 時間でございます。以上です。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1 番（岡本真澄君）

これだけ残業時間オーバーしてらっしゃる方が、令和 4 年度の段階でいらっしゃるといふかたちなんですけれども、5 年度突入しまして、何か改善等なされた部分があるのでしたら、教えていただければと思うんですけども。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

本年度、各小・中学校に留守番電話を設置させていただきました。

緊急時は、役場の当直に掛けていただくようメッセージを流し、当直から私か、指導主事に連絡をいただくようにして対応をしております。緊急時以外は、できるだけ次の日にかけていただくようお願いをしております。

次に、超過職員がいなくなるように、校長会で指導を行っております。

また、超過職員には校長、教頭による面談、個別指導をしていただいております。

それから 4 点目ですが、教育委員会の負担軽減の方策、要望の聞き取り、それらを各学校から行っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1 番（岡本真澄君）

いろいろと対策の方考えていらっしゃるといふかたちで、何とかそうですね。減していただければと思います。学校では、さまざまな事情の生徒の方々に対応されておりますので、丁寧に対応すればそれほど超過勤務や残業が増えていくと思います。しかしながらですね、教員の方々の精神的、体力的な負担が増加すればするほど心身が消耗してしまっていて、教育の質も下がっていくと思われまます。どうか教育委員会の方としましても、適切なサポートをしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

2 つ目ですが、現在、さまざまな職業で働き方改革が進んでいると思います。そこで、教員の働き方改革について伺います。

平成 31 年に文部科学省より、学校における働き方改革に関する取り組みの徹

底についてという通知がございましたが、土庄町の学校における働き方改革の取り組みは、現在まででどのような状況でしょうか。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

平成29年6月22日から31年1月25日まで中央教育審議会では学校における働き方に関する審議が行われ、29年12月26日に文部科学大臣決定の「学校における働き方改革に関する緊急対策」、そして、31年3月18日付、文部科学事務次官名で「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」の通知がございました。

その中では、各教育委員会における取り組みの状況を把握し、公表するという事で、各教育委員会への調査協力要請がありました。香川県教育委員会では、平成30年3月に教職員の働き方改革プランを策定し、各市町でも策定あるいは公表をしております。

本町でも、策定を進めておまして、本年8月と9月の定例教育委員会で案について協議をいたしております。策定には、もうしばらくお時間をいただきますが、策定しましたら、議員の皆さまにもご報告をさせていただきます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

策定中というかたちでおっしゃっておりますが、もし、できるならば具体的な内容とあって、聞けたりできますでしょうか。お願いします。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

先ほどご質問いただきました、長時間労働への対策、それから教職員の業務権限に関するものが主なものとなります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

それって一体どういったものか、もう少し詳しくお願いします。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

再質問にお答えいたします。

具体的に申し上げますと、長時間労働への対応としまして、事務支援員の導入、それから統合型校務支援システムの導入等に関する検討、それから、部活動の地域移行につきまして、そして学校支援ボランティアの積極的な活用などとなります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

いろいろと考えられてると思うんですが、効果の方は、どの程度あると思っ
てらっしゃいますでしょうか。お願いいたします。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

まずは、人が足りていないということが問題です。われわれも講師の募集を
随時行っておりますが、教員免許が必要となりますので、なかなか人材がおら
れません。そうしますと、教員免許がなくても、できるところからサポートを
していきたい。そのように考えております。事務支援員も、先ほど申し上げま
した事務支援員も慣れてきますと、保護者対応等、電話対応することが可能と
なりますので、負担軽減に繋がっていくのではないかと、そのように考えてお
ります。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

ありがとうございました。

土庄町としてもしっかりと考えられているということがわかりました。

先ほどの学校における働き方改革に関する取り組みの徹底についての中で、
文部科学省では、学校における働き方改革を強力に推進するため、文部科学大
臣を本部長とする学校における働き方改革推進本部が設置されておりますが、
こちらはご存知でしょうか。お願いします。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

ご質問にお答えいたします。存じております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1 番（岡本真澄君）

令和 5 年 8 月 29 日に、学校における働き方改革推進本部が第 7 回が開催されました。ご存知かもしれませんがそこであったものが、文部科学大臣のメッセージを 3 点ほど、僭越ながら内容は少し割愛してご紹介させていただきます。

まず 1 点目、国が先頭に立って改革を進めます。

2 点目、学校教育委員会はできることは直ちに実行。

3 点目、保護者、地域住民の皆さまへ。と、この中で、2 点目の学校、教育委員会は、できることは直ちに実行では、働き方改革は国だけでは進みません。改めて、一人一人の教師の勤務時間管理および健康管理、業務分担の見直し等の責任を有しているのは、各校長であり、サービスを監督する各教育委員会であるということ、すべての校長先生および教育長の方々にご確認いただきたいと思えます。「これまでの取り組みで効果が見られた好事例は、相当蓄積されており、徹底した実行に移すべきときです」と、文部科学大臣のメッセージの中でありました。

このメッセージの中で、好事例というのを調べてみました。

文部科学省のホームページですね、令和 3 年 3 月に全国の学校における働き方改革事例集というものがございました。

目次では、ちょっと簡単に紹介させていただきますが、目次では、具体的に改善したい業務がある方へなど、5 つの項目が分かれており、続いて、かなりの量の取り組み一覧と、好事例提供校のインタビュー一覧と続いております。取り組み一覧の中から、2 つほど事例を抜粋してどういうものか紹介させていただきます。

まず 1 つ目、学習評価通知表の作成点検の項目で、押印欄の廃止、取り組み内容が通知表の押印欄を廃止した。

削減時間として、担当 1 人当たりの目安が 30 分の通知表 3 回ですので、年間 1.5 時間、事例提供校からの声では、導入効果として、押印の手間が減ったのと、理由を添えて削除したため、働き方改革の姿勢を保護者の方にも啓発できたと。課題対応として、担任が最終確認をしたかが曖昧になる。チェックを入れる表を用意し確認することとした。

2 つ目、業務分担の見直し。学級担任の項目で、級外教員の活用。

取り組み内容が、朝の電話対応や下校指導といった業務を担当以外で行うことによって、担任の負担削減を図った。

削減時間、担当 1 人当たりの目安が 1 日で 15 分の年間 200 日ですので、年間 50 時間、時間が削減できましたと。

事例提供校からの声では、担任の業務時間外勤務が削減された、今ご紹介させていただいたのはあくまでも 1 例なんですけれども、このような事例集、と

いうものが提供されているっていうことをご存知でしょうか、教育長にお伺いいたします。

○議長（濱野良一君）

港教育長。

○教育長（港育広君）

働き方改革事例集というのが、令和 5 年 3 月に改訂版が文部科学省から出ております。そちらの方を私も読ませていただいております。町内で本校、本町の各小中学校の方で、できるところはこれを活用していきたいなと思っております。ただ、なかなか本町にはできない面もありますので、そこは各学校と検討しながら、取り組んでいきたいと思っております。以上です。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1 番（岡本真澄君）

教育長もおっしゃるように、できるもの、できないもの当然ございますので、こういうことがありますよっていうね、きちんとしたものがございますので、しっかりと精査検討して、土庄町の教職員の方、また生徒のためにもですね、できるものから、ぜひ改善につなげていただければと思います。よろしく申し上げます。

次の質問に移らせていただきます。

放課後子ども教室を利用されている保護者へのアンケート調査が令和 5 年 7 月 18 日から 7 月 27 日に実施されました。

その回答率は 144 件中、利用者ですね、52.8%の 76 件の回答で、半数を上回っております。

その中で、次の年度も利用したいと思う方が 50 人近くいらっしゃいます。自由記載のコメントを含め、さまざまな意見もあったかと思われそうですが、どのように考えていらっしゃるのか、担当課長、お願いいたします。

○議長（濱野良一君）

生涯学習課長 宮原正行君。

○生涯学習課長（宮原正行君）

岡本議員のご質問にお答えいたします。

今回、土庄町放課後子ども教室の全利用家庭に対しまして、アンケート調査への協力をお願いし、76 家庭から回答をいただきました。その結果につきましては、集計データを土庄町ホームページに掲載し、子ども教室利用家庭および町民へ広報しているところでございます。

アンケート結果から、利用家庭が子ども教室へ求めていることや思い、小学生の放課後の実情など、ある程度把握することができたと思っております。アンケー

ト調査にご協力をいただいたご家庭には改めて御礼申し上げます。アンケート結果を受けて、今後、放課後子ども教室の運営をどのようにしていくかについては、各児童の放課後の過ごし方に関わる重要な事柄であります。現在、教育総務課も含め土庄町教育委員会全体で、今後の運営方法についての協議を進めております。

協議が整い次第、今後の運営方法について子ども教室の利用家庭の皆さまに周知と説明をさせていただき、利用家庭のご理解を賜りながら運営をしてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

しっかりとですね、教育委員会の方でも考えてらっしゃるというかたちで、ありがとうございます。

ただですね、今回のアンケート調査では、学年ごとの集計結果がないので、ざっくりとしたものになってしまってますので、せっかくの調査アンケートですから、しっかりとですね、今後活かしていける、より詳細なもの等ですね、もし、次実施するときはそういうふうにしていただきたいと思いますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○議長（濱野良一君）

宮原課長。

○生涯学習課長（宮原正行君）

岡本議員の再質問にお答えさせていただきます。

今回のアンケート調査を実施した中で、教室によっては人数の関係で回答した個人が特定されやすいとなるのではないかという危惧もありまして、あえて、子ども教室利用者の学年をチェックする欄は入れなかったわけですが、岡本議員が言われるように、学年ごとのニーズを把握することも、確かに重要であると思いますので、再度アンケート調査等を実施する機会があれば、そのあたりは改善したいと思います。

○議長（濱野良一君）

岡本真澄君。

○1番（岡本真澄君）

ありがとうございます。

このアンケート結果もそうですね、自分も思ったよりも、半分近くぐらいの方がですね、満足されてるというかたちで、すごく町の方も努力して頑張ってもらっちゃるといのが、保護者の意見からもですね、見えてくるものありますので、今後もですね、できる限りのサポート、改善等していただいて、これ

からもですね、利用者町民の方々の目線で頑張っていたいただければと思います。
以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。